



町民文芸

短歌

戦没の長兄の面影偲びつつ

遠くも呉の元軍港に
北野津 宮本 末秋

桜咲く海辺の町の天主堂

干物売る老婆方言可愛い
西野津 古崎スエノ

あなたより一日遅れに逝くからネ

高期高齢会話の中に
鹿野 尾崎 京子

赤信号青になるまでガラス越し覗く

フラワーショップの鮮む彩る
西野津 古崎 栄子

鶏の生命貰いし玉子掛け

一粒たりと疎かにせず
吉本 橋村 正之

七割も載れし「声欄」原稿も

八十過ぎれば知力劣ゆ
西上宮 村内 一誠

道の駅作りし人の夢のせて

今日も鮮やかデコポインチゴ
鹿島 前村 俊子

残り世は憂ひを捨てて和のころ

いよよ華やぐ生涯なりけり
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

病い癒えし帰郷の空よばくらめ

山河に聞ゆは風の歌かな
北野津 井田 道寛

俳句

灰皿を花瓶に替えて桃の花

北野津 宮本 末秋

冬五輪今日で終りの夕飼かな
西野津 古崎スエノ

おでん鍋明日の休み約束す

鹿野 尾崎 京子

縄飛びをびよんぴよんとびし春の庭
町 香山菊童子

木の芽晴れ溢れ咲く白梅庭香る
西野津 古崎 栄子

七色のつつじ咲き出で浄土かな
西上宮 村内 一誠

野の小道花ぞ開きて草を知る

鹿島 前村 俊子

残り世は安如の庭の黄水仙
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

風そよぐ童子たのしも春の丘
桜ヶ丘 吉田 照子

白辛夷光あまねき老二人

桜ヶ丘 宮崎トシ子

春光や縄文土器に蟲の影

北野津 井田 道寛

外にも出よ八十路寿ぎたる春の風
町 田中 澄子

三島由紀夫 をたずねて

法道寺 本田 花風

「潮騒」を読んでいたとき表紙の裏に書かれた作品の一覧があった。その中のデビュー作、「花ざかりの森」があり、読んでみたくなった。16歳の作品がどんなものか気になった。13歳で短編を発表しているが、まさに早熟である。

そんな折、三島文学の出発点、熊本で発見との新聞記事、「花ざかりの森」の原稿が見つかったのである。また「Saturday特集be」では三島が「最期」を始めた地、奈良の大神神社を参拝したあと、奈良盆地の東の山裾を縫って続く山の辺の道をたどったと、特集「みちのものがたり」で紹介された。偶然が重なり早速文庫本を手に入れる。

三島20歳の折、文壇デビュー以前の東大在学中、処女小説集「花ざかりの森」を康成に送り、その礼状から二人の親交が始まる。その親交の記録「川端康成・三島由紀夫往復書簡」を編纂した文庫も同時に手にした。「花ざかりの森」読み始めたがもうひとつ気乗りがしない。いつものことで作品より評論とか文獻で作品や作家の人生観、人物像を知るのが面白く、特に文壇史などは作品や作家をきめ細かく紐解いてくれ舞台裏を知ることが出来る。

今度も「往復書簡」にすぐ手が移る。この書簡は三島が日本の文壇で川端に心酔していたのだらう。「花ざかりの森」を見てほしく送りつけたことから始まる。在学中の三島が文豪におねだりしたことに対する川端の返事が最初である。(昭和20年3月付け)以降、三島が自決(昭和

45年11月)する直前の7月6日付けの川端宛の便りが最期になる。渋谷区大山町15 平岡公威(本名ひらおかきみたけ)様方あて御高著花ざかりの森、難有(ありがたく)拝受いたしました。中略・・・受け取ったが所要あつてまだ見えない様子が書かれ・・・とりあえず右御礼まで
3月8日 三島由紀夫様

3月16日 前略・・・都もやがて修羅の衝、冴返る寒さに都の梅は咲くかと思えばしほみながら・・・中略・・・きのふ青山の古本屋で「雪国」を見つめとめてまゐりました。何卒御身御大切に。御礼まで。
川端康成様

書簡は三島からの便りが大半(当時の文壇人のことなどの長文)で、川端への尊厳が偲ばれ、終戦を迎える頃から25年におよぶ全91書簡の親交の便りである。三島がニューヨークへ行った際ドナルド・キーンと接したことなど、幾多の知られざるこの書簡の発刊にあたって、当初三島の未亡人瑤子夫人「それは無理」言下に言っていたが、「めぐり合わせ」と川端、三島ご両家の了解もあつて「公開」に至つて・・・三島さんにとつて、川端康成が、いかに身近で、大切な存在であるかを改めて思い起こして頂きたい。それにしても、三島さんが、これほど熱っぽく、ほとんど純真無垢に自身をさらけ出した手紙を、これ程たつぷりと、川端宛に書き送りつづけていた、とは！

編集者 佐伯彰一

文化財つれづれ

氷川町内の文化財を紹介するコーナーです。

宮原公忠公の墓・宮原公忠公の奥方の墓

(町指定有形民俗文化財)

桜ヶ丘墓地公苑に至る坂道の入口に、宮原公忠公の墓があります。球磨・人吉の相良家の家臣であった公忠公は、永正一一(1514)年姓を「宮原」とし、宮原地区の城主となりました。民衆を愛し、善政を施したため、領民から敬愛されたといわれています。遺言に

「甲冑をつけたまま」とあり、その通りに葬られていると伝えられています。月の明るい晩になると、必ず甲冑を身に着けた武者が馬にまたがり、墓地から西のほうにある奥方の墓へかけていくのが見られるといわれています。その奥方の墓は有佐地区の個人宅にあり、公忠公の墓と向かい合うように建てられています。



▲宮原公忠公の墓



▲宮原公忠公の奥方の墓

【お問い合わせ先】 氷川町教育委員会 生涯学習課 ☎52-5860(直通)

おすすめ図書

一般書	児童書
京都の御朱印 梓 結実／著	ともだちのやくそく 中川 ひろたか／文
維新の影 姜尚中／著	さよならともだち 内田 麟太郎／文
西南戦争民衆の記 長野 浩典／著	地球のあゆみえほん 丸山 茂徳／監修
てんきち母ちゃんのあるものだけで10分作りおき 井上 かなえ／著	めちゃウケ！ かんたん面白マジック 中里 正紀／著
そこそこやるか、そこまでするか 鍛冶舎 巧／著	あなたのとなりにある不思議 日本児童文学者協会／編
人生の退き際 曾野 綾子／著	あおぞらの木 佐藤 明了／文

開館時間

平日 10時～18時
(木曜日 10時～20時)
土・日曜 10時～17時

休館日

月曜・祝日
※詳しくはスタッフにお尋ねください。

こどもの読書週間だ本を読もう！
4月23日～5月12日は「こどもの読書週間」です。子どもたちにもっと本を！との願いから、1959年にはじまり今年で60回目となります。幼少の時から本に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことは子どもたちにとってとても大切なことです。親子で読書を習慣化しよう！



八火図書館だより



【お問い合わせ先】 八火図書館 ☎62-3489 <http://www.hikawa-lib.jp/info/hakka/>